富山新聞

# 定置網改良で漁獲安定

## インドネシアで技術指導　氷見の2人帰国

インドネシア・南スラウェシ州ボネ県で、地元の漁業者に定置網の指導に当たった、氷見地区小型定置網協議会長の浜谷忠さん(六三)と灘浦定置漁業組合の浜野功さん(六四)が十六日までに帰国し、市役所で堂故茂市長に報告した。二人は強い潮の流れで網が動かないように改良したほか、捕れた魚を氷で保存する方法などを指導した。

技術指導は東京海洋大が行い、氷見市が協力している。二人は同大の有元貴文、武田誠一、馬場治教授と三日から十三日まで、ボネ県パレテ村で地元の漁師十三人を指導した。

一行は、その日によって漁獲量に極端な差があるのは、潮の強い日に網起こしをするためとみて、潮の弱い時間帯に一日二回、網を起こすようなスケジュールを作成した。潮で網が動かないように垣網に重りを付けた。浜谷さんは「改良で漁獲量が安定し、地元の定置網に対する信頼が高まっている」と話した。

# 漁獲量は安定

## インドネシア訪問報告　堂故市長に

定置網で魚を捕るパレテ村の漁業者

堂故氷見市長（右）にインドネシアでの定置網指導の状況を説明する浜谷さん（中央）と浜野さん

JICA(国際協力機構)草の根技術協力事業として、東京海洋大学が定置網普及に取り組んでいるインドネシア・スラウェシ島ボネ県パレテ村で定置網漁を指導してきた氷見地区小型定置網協議会長の浜谷忠さん＝氷見市脇方＝と浜野功さん＝同市小杉＝が十六日、市役所を訪れ、堂故市長に現状を報告した。「漁獲量は安定してきており、地元の漁業者だけでやっていけると思う」などと見通しを示した。

二人は三日から十三日までパレテ村を訪れ、三月に敷設した小型定置網の具合を確かめた。潮の流れによって網が変形して漁獲量が大きく変動していたが、二人が潮の状況を見ながら一日二、三回網を揚げるよう指導し、網の入れ替えなども行った結果、漁獲量が安定してきた。アジやイワシ、サヨリ、イカなどが捕れるという。

今後の状況については、十一月に再び訪れ、最後の指導を行う予定と報告すると、市長は「もうひと頑張りお願いします」と話していた。

二人は地元のボネ水産高校の卒業式にも出席した。

二人はこれまで、JICA草の根技術協力事業などで市が本年度まで定置網技術支援に取り組んだタイ・ラヨーン県にも何度も訪れ、定置網漁定着に尽力した。

北日本新聞

# インドネシアで定置網指導

## 氷見市役所　浜谷さんら帰国報告

網をつくる浜谷さん(右)と浜野さん(右)＝今月、滞在先のインドネシアで

東京海洋大の要請で、インドネシアで定置網漁の技術指導をしている氷見市の氷見地区小型定置網協議会長の浜谷忠さんと灘浦定置漁業組合員の浜野功さんが十六日、市役所に堂故茂市長を訪ね、帰国報告をした。

二人は三―十三日、同国南スヴェラシ州ボネ県パレテ村を約三カ月ぶりに訪れ、現地の漁師十三人と箱網を作り垣網とともに入れ替えた。沖合は干満差が二㍍ほどあって潮流が激しく、垣網になまりの重りを付けて水中に固定するようにした。

漁獲は多い時で一回三百㌔ある一方、潮流が激しいときは網が変形するためゼロになった。このため一日の潮流の変動をグラフにし、潮が穏やかな朝や夕を見計らって一日二―三度出漁。これで平均約百㌔と漁獲の安定化に成功した。アジやイワシ、アオリイカなど捕った魚介類を氷でしめることも教えてきたという。

浜谷さんは「もう一回の指導で、現地の人だけでも操業できるようになる。そのために対応の指針を作ってあげたい」と話した。

（美細津仁志）

北陸中日新聞